

今年3月にオーストラリア農業研修時のホストファミリーだったジョンの息子、トロイと農場の労働環境について話をした。

12月半ばから1月後半までの麦の収穫、貯蔵、乾燥、移動に、年々大型で機械化されたとはいえ、いまだマン・パワーが必要なのは米国でも私の農場でも同じような状況である。トロイが頻繁に「バック・パッカーズ」をアルバイトとして臨時に雇用すると言っていたが、具体的にどのような人たちなのか分からなかったの聞いてみた。

農場労働者に求めるセンス

トロイは「外国人のことさ」と説明してくれた。バック・パッカーは何か金髪・ブルーアイのオージー旅行者で、若者特権である「当てるない旅」の延長を考えていたが、まさかストレートに外国人という単語が出てきたことには少々驚いた。

オーストラリアはヨーロッパやアジア諸国と、簡易な労働を目的としたワーキング・ホリデーのシステムを導入している。猫の手でも借りたような時に彼らをアルバイトとして働かせることが容易な環境ではあるが、雇用主は宿泊施設、食事の管理のみならず、現地の法律で各種の保険や税金のために煩雑な事務作業

が発生する。早い話、

良い奴が来ればその投資に値するが、怠け者や性格の良くない、使えない奴は全体の2/3くらいになるようだ。マジメかどうか、英語ができるかどうかよりも、**農業という多様なことを同時に持ったネイチャー**（ネーチャーではない）が大切らしい。

そこでトロイが理解したのは「1985年以降に生まれたやつは使い物にならない」ということだとか。残念ながら彼の発言に留まらず、オージー全体としての傾向のようだ。

日本の85年といえば、プラザ合意後の円高、その後のバブル経済で、東京ではこの世を謳歌しないことは恐怖であり、この宴が永遠に続くと考えていた頃である。まっ、今の北海道の片田舎から冷静に検証しても、本来であれば富を国民と共有、再配分できなかったこと自体が、本当の豊かさではなかった証明になるのだろう。しかし、日本でも本当にトロイが言うように85年以降生まれ

「1985年以降に生まれた者は
使い物にならないね」

Vol.65



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

は使えないかという、決してそのようなことはないのだが……。

このような例がある。私の農場では私が25歳くらいの時から、小麦の収穫時に高校生のアルバイトを数名雇用してきた。かつての作業内容はコンバインの能力や性能不足などで麦が機械の中で詰まったり、乾燥場で小麦を移動したり、どうしてもマン・パワーが必要だった。ただこの20年くら

オレにも
言わせる!

北海道長沼発
ヒール宮井の憎まれ口通信

いは機械の性能向上もあり、高校生アルバイトはあくまでもエマージェンシー要員で、日中は床掃除がメインの仕事になった。30年前の労働環境と隔世の感があるのは、近代化が進む農業への予算配分に感謝するところだが、日本をもっと豊かにさせるのに関係省庁の遺伝子組み換え技術を普及させない姿勢は除かせていただく。

最近の高校生アルバイト事情

ところで、最近の雇用状況は少し変わって来ているようだ。アルバイトのほとんどが地元長沼高校の生徒で、彼ら彼女たちが3年生だった場合、アルバイト中にできるだけ1年生を紹介してもらうことにしていた。理由は簡単だ。3年間来てくれれば同じことを教えるなくていい。このようなことが30年近く続いてきたが、3年前くらいから3年生が「紹介できる1年生や2年生はいません」。僕たち知り合いが少ないので……と答えるようになってきた。私が「1人くらいはいらるだろ、部活の後輩とか?」と言っても、その答えはこの3年間いつも「いいえ、いません」。

ということは時給が安いのか? 今年の時給は900円である。高校生としては決して悪い方ではないは

ずだ。以前の高校生はバイトしたお金で「バイクを買います」「ギターを買います」「彼女も働いているので今度、旅行に行きます」といった答えが多かったが、最近の学生の多くは**携帯電話の支払いのため**が多い。また、かつてはたばこを吸うのが多く、こっそり吸われて乾燥した小麦でボヤでも出されたら困るので、大人はココで吸っているということになって、喫煙場所を決めたりもした。

そういえばこんな面白い高校生がいた。3年前のアルバイト高校生は**少しオネーっぽかった**ので、高校卒業したら進学するのか本人に直接聞いてみた。すると「悩んでいます」と答えたので、私はあのララッー(ニューハーフバー)って方法もあるぞと、お店が出している2000円のカレンダーを指さした。本人は一步踏み出して真剣に眺めてこう言った。「いいな♡」。

彼の同級生も3人くらいいたので、私が「良い友達いて良かったな」と言うと、そのオネー高校生は反応してしまい「君たちのこと大好きだから♡」と言っちゃいました。

どのような態度をするのか同級生たちを見ると、皆が両手で股間を押さえるしぐさにオネー高校生がもつと反応してしまい「か、わ、い、い」

と頬を赤くしていた。私が3人の高校生を少し喜ばせたので「この農場主は変態だ!」と彼らは言ってきた。私もその言葉に納得して「心配するな、大人になったらもっと変態になるのだ」と言い返しておいた。

このような愉快な高校たちも3年前でピタッといなくなってしまう。この3年くらいは近隣3町村で日曜日のみに発行されるミニコミ誌に「高校生募集」を出すと、地元からの応募はゼロ、来るのは近隣町村の高校生のみ。来てくれることはありがたいことなのだが、足はパリンやママリンの乗用車で送り迎え。まっ、いいか、これも日本が豊かになった証拠かな。

この2年でUターン組や大学生になって再び連絡してくる者も多い。大学を出て東京で働き、彼女以外の親しい女友達もでき、悠々自適の毎日を送る社会人をやっていたが、働いていた大手消費者金融会社が倒産。その後、新宿で客の呼び込みをしていたが、女関係でトラブルになり北海道に帰り、私のところで働くことになったものもある。

そう考えてみると平成生まれになつてから、ガッツがある高校生が減って、大人しくて口数が少ないのが多くなったような気がする。当時は私も若かったので、高校生が**初め**

て来た朝に喝を入れるために2つのことを話すことにしていた。

1つ目は、「電信柱が高いのも、郵便ポストが赤いのも、飛んでいるカラスがうるさいのもすべてお前たち高校生が悪いのだ。文句があるときはクルッと回って鏡がないことを確認してペロツと舌を出せ!」。つまり、**言われたことは文句を言わずに黙ってやりなさい**、ってことなのだが、どうしても高校生くらいだとやっつけていいこと、やったらどうなるかの判断が難しく、その点、女子高校生の方が素直に理解できるようだ。

2つ目は、「お前たちは人間ではない! 私の奴隷だ! だから高校生と呼ばれるのだ! 文句あるやつは今すぐ去れ!」と自分でも訳の分からないことを言っただけで、1人くらいは「おれは帰る!」と言って消えて行った懐かしき時代もあった。

後から聞くと、脅されても残った者にはその後、地元JAの中堅になり、「**あの時のことは忘れません**」と言ってくるやつもある。もしかしてTBS日曜21時のドラマ『半沢直樹』のように10倍返しに燃えているのだろうか?